

# 新潟理窓

発行所  
県支部  
事務局

## 支部長御挨拶



新潟支部長  
坂上 隆

このたび、木南前支部長の任期満了に伴い、後任を仰せつかりました坂上隆と申します。微力ではありますが、先輩諸氏、本部のご指導を頂きながら、支部長の大任を果たして参りたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

思い起こせば、理窓会に入会して三十六年目になります。この間、新潟県立高校に勤務していますが、理窓会との関わりや思い出を述べ、ご挨拶とさせていただきます。

昭和五十一年四月、六日町高校湯沢分校に新採用教員として赴任しました。当時の齋川洋二校長先生から、「私も理窓会員だからよろしく」というお言葉をいただきました。校長先生が急に近い存在となり、安堵したのを今でも鮮明に覚えています。しかし、若さ故、総会に出席することはありませんでした。(反省)

平成元年度から県立教育センターに勤務することになり、理窓会員の管理職の先生方から総会や研修会に出席するよう誘われました。この頃から、漠然とながら管理職を視野に入れて教職員生活を送ったような気がします。

つた理窓会先輩管理職の先生に感謝申し上げます。

総会が中越地区で開かれることになり、田中實校長先生のご指導のもとで企画運営をさせて頂いたいただきました。当時の総会の出席者は、ほぼ全員が高校教員でした。中学校教員や民間企業人からも出席していただき良かったことから、理系人間の興味をそそる講演とセットならもうまくいくだろうと、当時、長岡技術科学大助教の高橋勉先生(現同大教授、理科大卒)から「魔球の科学」と題して、野球の投手が投げるボールを流体力学の立場から解説して頂きました。案の定、参加者四十名の大盛況であり、田中校長先生と喜んだことを忘れられません。

こうしてみると、理窓会との関わりを案外はつきりと記憶しています。ということは、それだけ関わる場面が少なかつたということかもしれません。これから、理窓会に恩返しをする意味でも、ドジョウのように泥臭くてもいいから、泥まみれでもいいから、しっかりと支部長の任を全うしたいと思えます。

### ◆新潟支部総会◆

平成23年8月28日(日)理窓会新潟支部総会が中越地区のお骨折りにより、アトリウム長岡で開催されました。

総会での議事の内容につきましては、後述の通り承認されましたことを報告いたします。

今回は、理科大学常務理事の村田雄司様、理窓会常任委員の増淵忠行様においていただき、御講演を賜りました。心より感謝申し上げます。



### ◆役員改選◆

- 支部長 坂上 隆
- 副支部長 森 久
- 熊谷 正美
- 佐藤 茂樹
- 日野 顕英
- 文亮 秀紀
- 竹内 文亮
- 高畑 秀紀
- 中野 晋
- 水島 繁満
- 加藤 順弘
- 上野 順治
- 志田 重道
- 山田 亮一

地区幹事 上杉 肇 江口 知之  
 加藤 寿一 森 知之  
 平成23年度版名簿に記載  
 平成23年度版名簿に記載  
 平成23年度版名簿に記載  
 願 問

◆平成22年度事業報告◆

- 支部役員会開催 6月27日 新潟会館 14名
- 支部総会開催 8月28日 チサンホテル 26名
- 会員名簿発行(9月版) 9月28日 A4 24頁100部
- 研修会開催 10月3日 新潟会館 13名
- 会報「新潟理窓」発行 1月30日 B5 4頁561部

◆平成23年度事業計画◆

- 支部役員会開催 6月25日 新潟会館 16名
- 支部総会開催 8月28日 アトリウム長岡 (長岡市) 32名
- 会員名簿発行(8月版) 8月28日 A4 24頁32部
- 会報「新潟理窓」発行 12月上旬 B5 4頁600部
- 会員名簿発行(3月版) 3月下旬 A4 24頁100部

○収入の部

繰越金	293,168円
会費	129,270円
臨時収入	2,000円
本部補助	4,000円
雑収入	230円
合計	469,668円

◆平成22年度会計収支決算◆

○支出の部

支部総会補助	82	531円
会議費	9	202円
名簿・会報	11	630円
送料	80	250円
事務用品		105円
資料代	6	000円
合計	189	718円

◇平成23年度会計予算◇

○収入の部

繰越金	279	950円
会費	100	000円
臨時徴収	4	000円
本部補助	45	000円
雑収入		500円
合計	429	000円

○支出の部

支部総会補助	85	000円
会議費	20	000円
地区還元金	4	000円
名簿・会報	20	000円
送料	85	000円
事務用品	10	000円
資料代		000円
予備費	199	000円
合計	429	000円



御挨拶

副支部長  
江口 司

この度、  
理窓会新潟  
支部副支部  
長を仰せつ

かりました江口司です。  
現在は、県立新津工業高等学校に勤務  
しております。本校は、平成二十一年度

に学科改編が行われ、工業マイスター科、生産工学科、ロボット工学科が創設され、全く新しい工業高校に生まれ変わりました。さらに、来年度、日本建築科が新設されます。木工加工中心の学科で、本校を入れて全国で三校しかありません。目指す大工像は

- ・木の温もりを感じ取り、木の美しさを理解し、建物に生かせる人
- ・建物の建てる場所の気候や風土を理解し、自然と調和できる建物を建てられる人
- ・先人の技を学び、自分のものにして後世に伝えられる人
- ・住む人と一緒にあって、永く住み続けられる建物をたてる人

中越地震と中越沖地震で昔から新潟の気候や風土に配慮し、住み続けられてきた多くの民家や住宅に被害を与えました。しかし、傾くことはあっても、倒壊することは少なく、傾きを直し、何世代、何百年と住み続けることができました。

今日の大工と呼ばれる職人は、プレカットや既製品の造作部分を組み立てる組立工となり、傾いた家屋を直すことができず、木の良さを活かし、何世代も家族が暮らせる住宅を建て、維持している職人大工を輩出したいと思っています。日本建築科では、手刻みの大工技能を学び、卒業までに2級技能検定（建築大工）の取得を目指します。2級とは、建築大工の一般的技術レベルで、原寸図の作図と正確な道具の取扱が求められます。このような希少な学科の開設に携わり、日本の伝統工法を次の世代に伝えていくやりがいのある職務を遂行しています。

学校としては、大きな変革期であり、職員も新しい工業高校を作ろうと精神的に働いています。今後とも、新津工業高校にご支援をよろしくお願いして御挨拶いたします。

最近思っていること

副支部長  
加藤 寿一



この度、理窓会新潟支部副支部長を仰せつかりまし

た加藤と申します。今年四月の異動により、県教育庁高等学校教育課から三年ぶりに学校現場に戻していただき、母校の県立糸魚川高等学校に勤務しております。

理窓会の会合には、高等学校教育課在職中はなかなか出席できず、県立新発田高等学校に勤務していた平成十九年度の支部総会以来ご無沙汰しておりました。微力ではありますが、支部長のご指導をいただきながら、理窓会新潟支部発展のため副支部長としての責任を果たして参りたいと思っております。どうかよろしくお願いたします。

さて、母校理科大発展の様子については、大学のご努力により、葛飾キャンパスの建設など、多くの情報をいただいておりますが、学校に勤務する者にとって気になることのひとつに、理科大卒業者の教員合格者数があります。大学のホームページを見ますと、平成二十二年度については、既卒者を含め、非常勤講師をも含めた全学の採用者数は106名となつていますが、新潟県での採用者については、特に高等学校での新規卒業者は、ほ

んど見かけなくなつたのが現状ではないでしょうか。

確かに学校教育に対する社会的要求が年々厳しくなつていく中で、生涯の職として教職を選択する若者が減少するのは想像に難くないところですが、これまで数学・理科・工業と、理数・産業教育の発展に果たしてきた理科大の役割は極めて大きいものがあると思います。このように申し上げるのは、特に県全体の教科指導等に係わり、重い仕事を担当できるような人を捜している、周囲から推薦される中には、何人も理科大の同窓がいて、私自身随分助けられた経験があるからです。現在、こうした同窓の多くが、学校を支える中堅として活躍していることは誠に喜ばしいことではありますが、後継となる卒業生が減少することは、何とも淋しいことに思われるのです。

学校関係の話ばかりになってしまいました。最後に他の情報の一つ。先日、同じ物理学科卒業の金子君が長岡市危機管理監として勤務していることをテレビで知りました。同窓の活躍を見聞きするのは、理由など何の説明の必要もなく、嬉しく思えるものです。今後もこの会を通じて活躍しておられる方々の情報を共有し、更に同窓の絆を深めていきたいと思つていきます。



御挨拶

副支部長  
森 知之

この度、  
理窓会新潟  
支部副支部  
長という大

役を仰せつかりました。身の引き締まる

思いです。現在、阿賀野市立京ヶ瀬中学校に勤務しています。支部の発展と親睦のために微力ながら努力したいと思えます。

私は理学部応用数学科を昭和五十七年三月に卒業しました。在学していたときに旧一号館の解体と現一号館の建設がありました。四年の時には、真新しい一号館十四階の研究室で卒業研究に臨みました。

大学時代の四年間は混声合唱団に所属し、理学部だけではなく、工学部や薬学部の学生とも交流を深めました。主に薬学部の教室を借りて、火曜と木曜は夕方五時から八時頃まで、土曜は午後二時から六時頃まで活動をしていました。そして、毎年十二月には都内で定期演奏会を行いました。今から思えば、勉強以上に行い力を入れていたような気がします。その経験が生かされ、新採用の中学校では入学式と卒業式の式歌で指揮を行わせていただきました。さらに、当時の必修クラブでは、無謀ながら、合唱クラブを持たせていただきました。遠い思い出です。

さて、私が理窓会新潟支部の総会に参加するようになったのは、卒業後二十六年も経った平成二十年からです。岩根卓司先生から声をかけていただいたのがきっかけです。参加させていただくと、高等学校の先生方や本部からお出でいただいた来賓の皆様からのお話を直接お聞きすることができ、自分にとって、新鮮で大きな刺激となりました。

また、理窓会のネットワークのすばらしさも実感させられました。現在勤務している阿賀野市教育委員会教育長の田村仁先生、昨年度朱鷺メッセで行いました全国算数数学教育研究大会で同じ仕事に携わらせていただいた上杉肇先生、理科大

卒ということでもつながりを持たせていただいたことに感謝しているところです。中学校教員の中にも理窓会の会員が多くいます。今年度、当校にも、この春卒業したばかりの会員に、講師として勤めてもらっています。

最後になりますが、理数教育の重要性が益々叫ばれている現在、理窓会新潟支部での研修を通して、中学校と高等学校との連携が一層深められればと考えています。

### 36年目

S1理・応数 舟山 幹夫

そろそろお別れを迎える年齢になってしまった。

教員になった頃驚いたことの一つは、周りがスタートから一人前と扱ってくださることだった（とはいっても、裏でも表でも必死になって私を支えてくれたことは間違いない）。社会人になってしまったこと、仕事をするとということをも覚せざるをえなかった。自覚といっても、毎日が迷い道であったことはもちろんで、「放っておいたら大変だ」と、手取り足取り実にごまめに多くの方から面倒見ていただいた。無茶苦茶なこともたくさん言っていたに違いないが、見放さないうくれた方々がいたことは幸いであった。危機も多くあったが、そんな時頭に浮かんだのは、

「俺は先生という職にある人の中で最低の人間ではあるまい。何かは人よりいいところはあるはずだよな。」

この考えには数学が使われるのですがそれは省略。という事で、負けてられるか！と奮起し、再び悩める流れに戻った。

最近では、昔買った本をめくり探究心をくすぐられ、まだいけると元気が出た。また、二十数年前の卒業生から残暑見舞いが届き、細かに綴られた近況などの文面に勇気が湧いた。

「65歳からが本当の青春だ」と言っていた人がいる。日常と穏やかに付き合い、周囲から元氣と知恵を分けてもらいながら青春にたどり着きたい。

### 近況報告

H10理・数 松井 裕之

平成10年3月理学部第一部数学科卒の松井です。長岡高等学校から、燕中等教育学校に赴任して2年目になりました。

燕中等教育学校は、新潟県内で村上中等、柏崎翔洋中等に次ぐ3校目の中等教育学校として2005年4月に開校しました。今春に第1回の卒業式が行われ、70名の卒業生を送り出しました。卒業生の中には理科大へ進学した生徒もいます。今後続く2期生以降からも、理科大を受験し進学する生徒が多く出るよう頑張っています。

さて、本校には理科大OBの職員が5名（数学3、理科2）在籍しています。昨年は更に多い6名でした。数学・理科あわせて12名のうち5、6名ですのので一大勢力であります。更に、（私以外）の？）一人一人が非常に個性の強い方ばかりです。この理科大パワーが原因なのでしょうが、「2022年の文理選択では「理系V文系」と、理数の人気が高まってきています。

私は現在、中等3年（中学3年相当）の担任をしています。中学の授業にも慣れましたが、給食指導に慣れるのはまだ時間がかかりそうです。が、経験豊富な

先輩の助言とともに頼もしい後輩にも助けられ、理科大の絆を強く感じながら、日々の仕事に精進しています。

### 「日高敏隆選集Ⅳ 帰ってきたファアール」を読んで

S5理工・応用生物 笠原 拓司

大学の最初の講義で、「皆さんはこれから natural history ではなく、science を学ぶのです」と言われたことを覚えている。natural history Ⅱ 博物学。収集や観察記録に明け暮れる生物学を、古い学問として揶揄する言葉にも使われた。大学では動物学や植物学には全く触れず、細胞学や分子生物学が主体であった。今や生物学科の主流となったこれらの分野。しかし生物の教師を続けていて、改めて natural history の重要性に惹かれるようになった。著者の日高先生は、natural history は「動物や植物がどういふ論理で生きているのか」を知ることにあるという。「どういふ具合に生きようとするか」という論理を組まなければならないんだ」という一般論も見えるという。生物Ⅱの授業で最先端のバイオテクノロジーの話題を進めると、生徒は実感がわかず、ついてこれなくなる。個々の生物のあり方を知って初めて、生命現象の一般化を目指す近代生物学を理解できるのではないかと感じる。

高校生物は、受験科目であることを期待される。「センター試験でよく出題されるからここは覚えて」などと言う毎日だが、少しでもこのおもしろさを授業に組み込んでいきたい。



### ただ懐かしい

S52理工・数林 君夫

大学卒業からはや35年目。振り返れば自分で驚くほどの歳月である。原稿依頼を頂いた折角の機会、内容は自由のようなので、当時は懐かしむ機会とさせていただく。

校舎は千葉県野田にあり環境が良く、学生はよく勉強しているという趣旨の話聞いた。(記憶が正しければ)理科大で講師をされたという受験生が親和感を抱いていた「渡辺ツギオ」先生だったと思う。果たして辺りに若者の気を散らすような類いはなかった。環境は確かに良かった、というよりは殺風景だった。MA科の入学時のガイダンスでは、1年生から2年生に上がるには3つの関門科目があり大変厳しいので十分に勉強するよう、とのお達しがあった。確かに数学の高校数学とのレベルの違いには圧倒された。最初の前期試験では、緊張と難しさで3日間ほとんど眠れなかったことが思い出される。そして実際、半数程度は2年生に進級できなかったように思う。ところで3科目とは「線型代数」「微分・積分」「解析学」で、名高い先生も何人かおられたようだ。「解析学」は功力金二郎先生で、確かデデキントの切断を年中やっていたように記憶する。ただ唾然としていた。

いまは当時の友人達数人と年賀状の遣り取りだけはあるが、いま振り返っても大変懐かしい。アパート(大学近辺は理科大生しか入居していなかった)で寮とも言った)では、遊びも含め種々学んだ。友人が居た「みどり荘」「鳳鳴荘」などは今も残っているという。私の「陸荘」は既にないが、こうしているとやけに友人と再会したくなってくる。

### 少年少女発明クラブ

S50工・機 佐藤 茂樹

表題にある組織の運営委員並びに子供たちの工作指導を委嘱されて7年ほどになる。この組織は、(社)発明協会がその創立70周年のS49年に、将来を担う子供たちの「ものづくり」への関心と創造性を養う場として設立し現在に至っている。全国で200以上のクラブがあり、県内では新潟、十日町、上越の3箇所、私の住む上越では市教育委員会内に事務局を置いている。1年間通しての活動は、事前に申し込んだ小学校高学年50名ほどを対象に2つのコースに分け、毎月色々な分野、種類の工作を通じてものづくりの楽しさを教えると同時に工夫、改良といった創造力を養うことにある。先日も担当月であったが、「コイルモーター」なるものをいつものように子供たちと作った。市販の身近な材料を使い、エナメル線を巻いたコイル、ゼムクリップを曲げた軸受け、回転毎に点滅する豆球等々。カッターでエナメルを削る、半田ごてで結線する手つきは少々危なっかしいが徐々に出来上がってゆく作品に目が行く。プラモのような用意されたものではなく素朴な出来栄だが子供たち一人ひとりにとっては世界にひとつの宝物となる。さあ12月はホログラムフィルムと変色LEDのツリーに挑戦。結構私も楽しんでるかも。

### 平出鐵次元新潟支部長を偲んで

S22理化 若杉 浩榮

平成二十三年七月十七日に平出鐵次先生(昭和二十年理化卒)が天国へ去られたと聞き、悲しい思いで一杯でした。私は体調が悪くて先生の告別式に出席できず、七七忌の数日後、お宅へ参上し

とお詣りしました。私は鐵次先生の奥様とは五十年余り前に、ある県立高校で四年間を同僚として勤務していました。

鐵次先生は昨年八月半ばに心臓、次いで胃の手術、更に食道がんに耐えての一年間だったそうです。苦しかったと思いつた。平素、あんなに丈夫そうな先生だったのにと信じられませんでした。

さて、平出鐵次先生は、理窓会第五代新潟支部長を昭和十五年八月から満六年間、理窓会と新潟支部の振興・発展に一方ならぬ尽力をされておりました。

その支部長時代の最高の功績は、新潟支部の機関誌である「新潟理窓」の創刊であったと思います。昭和五十七年九月の発刊でした。

支部予算が皆無に等しいために活字印刷をすることができず、筆写で記事を作成して縮小コピー印刷をした第一号でした。読みやすい楷書の達筆で書かれていました。その発送作業も大変だったと思います。その幾多の困難を乗り越えての刊行を私は心から敬服しました。

以来、一回も休刊することなく発刊され続けて今は第二十五号を数えました。

平出先生は、昭和二十八年八月に県内で初集会となった柏崎地域を中心とする理窓会県支部の総会に初めて出席したとき、その主導をされた今井首治新潟県副支部長(大正三年理化卒)の理窓会への強い愛情に感服し、自分も理窓会に尽くしたい気持ちを持たれたそうです。

同じころに上越地域を中心とした理窓会の集いも開催され、やはり今井副支部長の主導であったそうです。

次に、平出先生を大変感服させた今井首治副支部長を紹介いたします。

昭和二十年八月一日の長岡大空襲で校舎が全焼した長岡工業学校の森山善雄校

長(明治四十年全科卒)が、その翌年三月に定年退職ののち、初代新潟県支部長になられ、その後、今井さんが県副支部長になられました。そして、昭和二十八年のときには五十九歳のようでした。

今井副支部長は、物理学校卒業後、他県で理科教員を勤め、のちに帰郷して柏崎で今井電業所なる会社を設立、理科機器の販売もし、理窓会県支部の発展を強く希っておられました。副支部長は昭和四十五年ころまで勤められました。

今井首治副支部長を見習って理窓会新潟支部発展に尽くそうと努められていた平出先生は、昭和四十二年に新発田商工高校長であった第三代支部長阿部博先生(昭和十四年数卒)の許で県支部事務局を担当されました。その事務局の仕事は私からの引き継ぎでした。

平出先生の理窓会への功績は多々ありますが、紙面の都合で筆を擱きます。先生のご冥福をお祈り申し上げます。

合掌



### ◇事務局からの連絡◇

①支部会費について

・年会費は10000円です。同封の振込用紙にてお願いします。同封されていない場合は納入済みです。

②名簿について

・支部会費納入確認後、該当者に送付いたします。この発送が遅れておりますことをお詫びいたします。

③事務局連絡先

新潟市秋葉区新金沢町29-14上杉肇  
電話&fax 0250(022)0312  
e-mail:GHF03107@nifty.ne.jp